

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」 No. 2 2019年9月30日発行
発行責任者：古川 正史

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web: http://www.soya-teachers.org Mail: info@soya-teachers.org



少人数学級 拡がりの兆しか？

ゆきとどいた教育を実現しよう！ 教育全国署名スタート！

「子どもたちにゆきとどいた教育を、確かな学力を…」という思いは教職員・保護者・地域みんなの共通の願いです。これを叶えるためにはその声を道に・国に届けることが必須です。今回の宗谷情報を読み合い、豊かな教育のために知恵を出し合ひましょう！

働き方改革の波

昨年、働き方改革関連法が採決され、今年の四月一日から施行されています。「働き方」に関する世間の関心は高く、北海道教育委員会も「北海道アクションプラン」を策定し、それに基つき各市町村でもアクションプランが作成されました。具体的には閉庁日が設定され、特に部活動のある中学校では「連休が取りやすくなった」という声も上がっています。しかし一方で「今までよりも時間に追われるようになった」という声も聞かれます。我々の労働条件は簡単には解決できるものではない、ということが証明されたとも言えます。宗谷教職員組合では昨年度、「働き方改革…改善！〜北海道アクションプランから考える〜」学習会を各支部で行いました。各

※1

教職員の定数には基礎定数と加配定数の2種類があります。基礎定数は学級数によって決められる基本の定数で、加配定数は事業の内容によって変わる+αです。つまり基礎定数は学級数が変わらない限り変化のない数です。そして加配定数は「その年によって無くなるかもしれない不安定な数」なのです。宗谷教職員組合は基礎定数の改善（増加）を求めています。

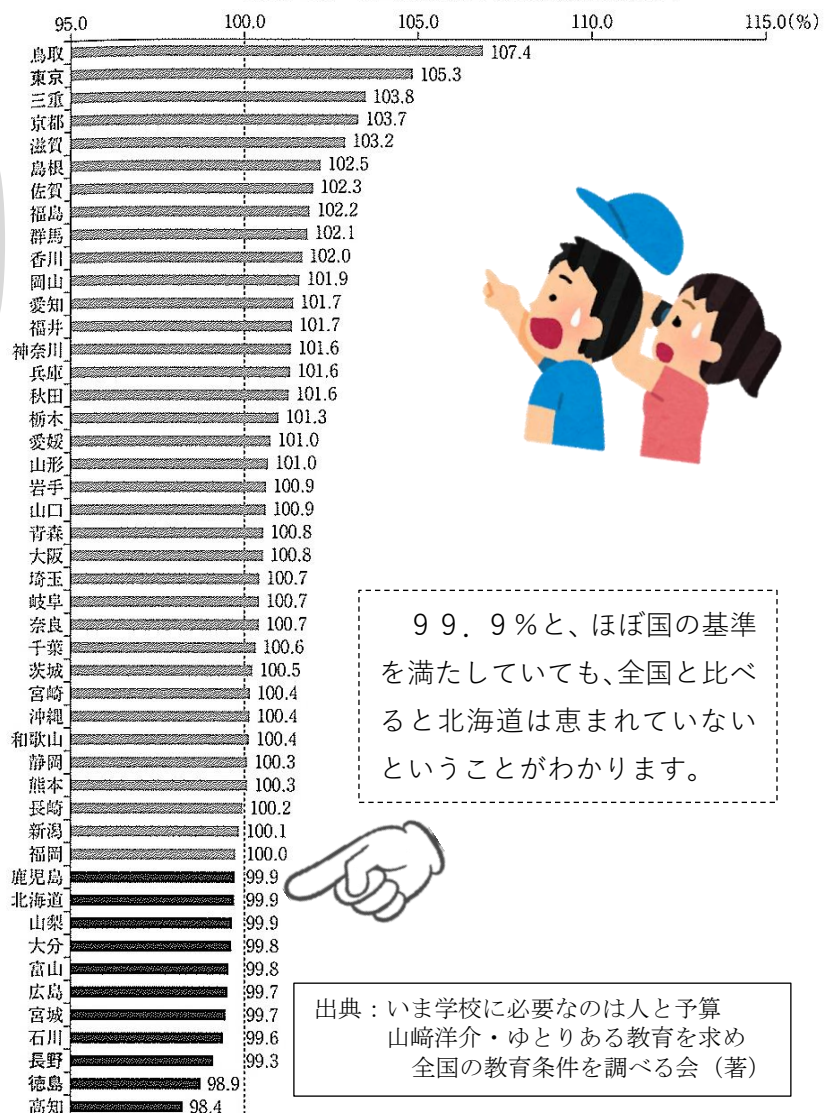


支部で出た意見として共通しているのは、「定数増無くして働き方改革はありえない！」というものでした。宗谷管内はたくさん加配が運用されていて、「先生の数を確保する」という意味ですごく助かっています。しかし毎年揺らぐ可能性のある加配ではなく、基礎定数として運用されることが重要なので

※1
現在、国の施策としては小学校一年生のみが三十五人学級となっています。北海道は独自に小二・中一も三十五人学級としています。国の基準に比べると良い状況に感じますが、全国と比べると、定数充足率※2は全国で三十七位(九十九%)となつています。つまり、国の基準に比べて県の責任で豊かな人員が配置

北海道の先生の数は…

2015年度 公立義務制諸学校の教職員定数充足率



99.9%と、ほぼ国の基準を満たしていても、全国と比べると北海道は恵まれていないということがわかります。

出典：いま学校に必要なのは人と予算
山崎洋介・ゆとりある教育を求め
全国の教育条件を調べる会（著）

※2

定数は義務標準法と言われる法律で定められています。その定数を基準にしながら都道府県ごとに教職員の数が決められています。

定数充足率とは、その法で定められた定数に対し、実際にどれだけの教員が配置されているのかを示した割合です。100が国の基準と同等、100を切れば少なく、逆に数が大きければ大きいほど豊かに配置されていることとなります。

されている県が多いという事です。つまり、「北海道は先生の数は少ない方だ」と言つことができるのです。このような教育条件の格差がある中で、我々は確かな学力を身につけさ



いるのです。

北海道では三・四年生

で

少人数学級に？

九月十四日(土)の北海道新聞朝刊で「小学3、4年も少人数学級」という記事が載りました。「よし!」と思った方も多いのではないのでしょうか。学級増となれば、担任という「定数」の先生が増えます。これは大きな一歩です。しかしここには畏がありそうです。記事の最後には次のように書いてあります。

「追加配置が必要になる教員については、国に要望するほか、学力向上対策などのために加配している教員を振り分けることも検討する。」
国に要望する、ということは、「国の責任のもと少人数学級を進めるべきだ」ということです。これはまさにその通りですが、同時に「道としては何もするつもりはない」と言っていることと同じです。それを証明するかのように、後半には「加配している教員を振り分けることも検討」とあります。今いる加配枠の予算を担任分として置き換えると

小学3、4年も少人数学級

道教委検討 学習支援きめ細かく

道教委は13日、札幌市を除く全道の小学3、4年生を対象に来年度から、1クラス35人以下の少人数学級導入を検討していることを明らかにした。現行は1クラス40人で、来年度の新学期指導要領の全面実施や、小学3年が学習につまずきやすい時期であることを踏まえ、きめ細かい対応が必要だと判断した。

(鹿内朗代)

「少人数学級を進める」という記事を伝える

九月十四日付の北海道新聞

全教共済を知ろうのコーナー

メリットは一つじゃない! 蓄えよう年金共済

「2000万円」という大金が話題になりました。95歳まで生きるには夫婦でそれだけの蓄えが必要と試算された老後資金報告書です。最終的には「撤回」が決定されました。モヤモヤは残っていますが、いずれにしても不安があることには間違いありません。

とある事務職員の先生から「あまり個人年金保険に入っている人が少ないんだよね」とお話をいただきました。不安を解消するために年金共済を始めてみませんか? 月々3000円から始められます。「一時金払い」というボーナス併用もできます。こちらについては10000円から支払いが可能です。少額から始めて途中で増額するということも可能です。

メリット

- ・退職後の蓄えができる!
- ・年末調整で税金が返ってくる金額が増える!

デメリット

- ・申込がいつでもできるわけではない。
- ・掛け金の分だけ「今」の出費が増えちゃう…。

申込は11月30日までです。しかし忘れてしまうことが多いです。なので思い立ったが吉日! 少しでも「話を聞いてみたい」と思っただ方は連絡をください! 電話でもメールでも構いません。なお、今回の申込み期間だと、来年の2月加入、引き去り開始となり、2020年末の調整から控除が始まります。消費増税の今、こんな減税方法もできるのです。



今回は「先生の数」の教育条件特集です。宗谷の学校は加配が多く、手厚いと言われていますが、全国と比べると少

ないということがわかったのではないかと思います。より良い教育条件を求める声の輪を広げていきましょう。主催者はわれわれ国民なのですから! すべては子どもたちのために!!

(えんどー)

いうことです。つまり、現在の教育予算を変えずに運用していくということとです。大きな一歩であるけれども、じつはその場で足踏みをしていただけ…ともいえるわけですね。

声を道に、国に!

宗谷教職員組合は、春には「えがお署名」、秋には「教育全国署名」に取

り組んでいます。これは全道組織である道教組(全北海道教職員組合)と全国組織の全教(全日本教職員組合)の連動に賛同して行っているものです。えがお署名は文科省に提出します。「手厚い教育予算」を組んでもらうためです。教育全国署名は国会と道議会に提出します。手厚い教育予算を実現(予算を通す)するためです。もちろんです

が、予算は毎年組まれるものです。ゆえに毎年署名を行い、声として届けることには大きな意義があるのです。この毎年の取り組みが教育条件の大きな前進を生み出してきました。教職員は個人では道教委や文科省との交渉権を持っていません。交渉権を持つ組合が大きな力を発揮してきた部分であり、今後もそれは変

これまでの主な成果

- 1989年 教育全国署名始まる
- 1991年 小・中学校で40人学級完成
- 2000年 高校で40人学級完成
- 2010年 公立高校授業料無償化
私立高校は就学支援金制度開始
- 2011年 小学校1年生で35人学級
- 2012年 加配で小2も35人学級実施
- 2019年 全国22府県・6政令市において
小中学校全学年の少人数学級実施
- 2020年 高等教育無償化始まる